ジャンヌ・ダルク・オルタ
逆レイプ・アヴェンジャー
R-18

コレは、夢だ
わるい、夢だ
私ではない彼の
鏡写しの虚像を
憤怒の眼で歪めた
存在しない筈の
逆様の幻影
だから……
ふっふ……

やった！
やってやったわ!!
あの女はこんな事
絶対しないに
決まっているもの!!
そう
結局私は
そういうもの
誰が私の自由を保証し
ただ一人の英霊と扱ったところで
いや、そうであればある程
この起源からは逃れ得ない

無防備なマスターですこと
一息で散ってしまう弱い人間のくせに……
あぁ……
殺しは、しない
この情動はこの衝動は
憎悪ではなくしかし同じくらいに熱く煮え滾って
けれどそっくりなわるいモノだ
さっきの口吻で確信した私の中にある、この衝動
あなたが一体どんな顔をするのか見てみたい
あなたの心をグチャグチャに掻き乱して
私のこの心の泥で汚染させてしまいたい

ギッ…
……よし
ふん
こんなもんで
いいでしょう
トス…
ギシ…
しかし……
起きないわね……
今のところ
好都合とはいえ……
変な奴に夢の中で攫われて
たりしないでしょうねぇ
肝心なところでもずっと
寝っぱなしだと困るわ
……なんか
心配してるみたいで
腹が立ってきた……
グググ
デコピンでも
食らわせて……
いいえ
ダメ
まだダメ
もっとしっかり
取り返しのつかない
状況まで持っていかなくちゃ

ふふふ……これでいきなり勃起した性器が飛び出てきて驚いたり怯んだり……
なんてテンプレパターンが私に効くものですか知っていれば恐れる事など何も
カチャ
カチャ
な〜っ!!
フラ〜
………
……ああ、これは
そうだ、この、この気持ちは
プラ〜ン
何なのよもう!大きいのが出てきてもだっさいリアクションしない様に心の準備をしていたというのに!
憎い……!何て憎い肉棒なのこのまままもぎ取ってやりたいくらいだわ!
ムギギ
ギギギ……
純粋な
憤怒
ピキ

いいえ、これはむしろチャンス！
小さい状態から弄ぶ事でより大きな恥辱を与えるのよ！
……………
そわ…
そわ…
……どこを、どうすればどのくらいの強さでやれば…
ああもう！面倒臭い！
口でやってしまうのが手っ取り早いでしょ多分!!
ぶにゅぶにゅしていて…ちょっと独特の味も
あ、なんかドクドク脈が…
少し、かた…
っ？

ズオン
ぐぬぬぬぬ……
ぐ……な、生意気な
随分大きくなったわね
ゴホッ…
の、のど…っ
ふさいでっ
ていうか
本当に大きい…
これ、本当に
入るの…？
ここに……
はぁ…
ん…

熱い……
この男の脈を
感じる……
ヌルヌル
してきた……
この男の？
それとも……
ああ、考えるのも
億劫になってきた
あー……
もう、いいや
挿入れちゃえっ
い、痛い！
お、思ったより…
かなりっ!!
さ、裂けたじゃないの
このバカちんこ!!
でも……
ふ、フフフ
どう？
貴方の全部
私に呑み込まれて

あ
い、いやいや
これは予行演習！
そう、レイプして
痛がってるなんて
バカらしすぎるもの！
でももうコレで
大丈夫になったわ……
だから無駄じゃない……
決して無駄ではなかった
のよ私……と、いうわけで
フー…

えっ じ ジャルタさん!?
何これ 縛られ!?
はん、わからないの? 今から貴方を犯すのよ!
な、何で そんな事
何で?
決まってる じゃない
貴方がそれを 決して望まない からよ
私を説得してみる? けどそれは無駄 生憎興が乗って しまってるの
助けを呼ぶ? しないわよね
だって、こんな 場面に助けを呼んだら 私にとって致命的ですものね

言ったでしょ？
炎で焼いてあげるって
わかる？
これがその
一つのカタチ
あなたのすべてを
こうやって……
なあに？
その顔
やっぱりやめて
欲しいのね？
いいわ、すごくいい
もっともっと
ひてあえはふ
なっへ……

んくっ……
はぁ～……
これ、おいしい
ああ、なるほど
本当にこんなので
魔力供給になるのね
じゃあ次は
お腹のナカに
貰わなくちゃ
ほら、見える？
見なさいよ
貴方のグロい
男性器が挿入って
いっているのを

どう？
私の膣内の感想は？
…そんな顔して
今誰の事を考えて
いるのかしら
あのデミサーヴァント？
それとも別の誰か？
月並みな言葉
だけれど
今は私との
この行為の事だけ
考えていれば
いいじゃない
嫌そうに
しててもっ
体の反応は
関係ないものね
貴方の性器が
私の子宮を突き上げて
苦しいくらい、だわっ
二回目だからか
もう痛くない…
いやむしろ
あつくて
ふわふわする…
陰茎の感触と
少しずつ漏れ出てくる
魔力のアツさが

どうしたの？
気持ちよくなってきたのかしら？
いいんですよ素直になってしまって
自分から腰を振って快楽を貪るがいいわっ
欲しい…
早くナカに…欲しくなってきた
ああ、わかるくる、もうすぐっ

ふふ、精と魔力を貪るなんて、まるで淫魔にでもなった気分
ペロ…
ふんいつまでそんな濡れた犬みたいな顔しているのよ
ほら、舐めさせてあげるから元気出しなさいよ
ご褒美でしょう？
グリ…
っ……あれ？
血の…味？

あ、あの
ジャルタさん？
は？何よ？
もしかして
初めて…だった？
は、はあああああああ!?
そんなわけないでしょ！
2回目、2回目よ！
貴方が寝ている間に
既に一回……
プル プル プル
もうッ!!
余計なコト
喋る体力も考える気力も
もう残さないんだから!!
何でだー!!

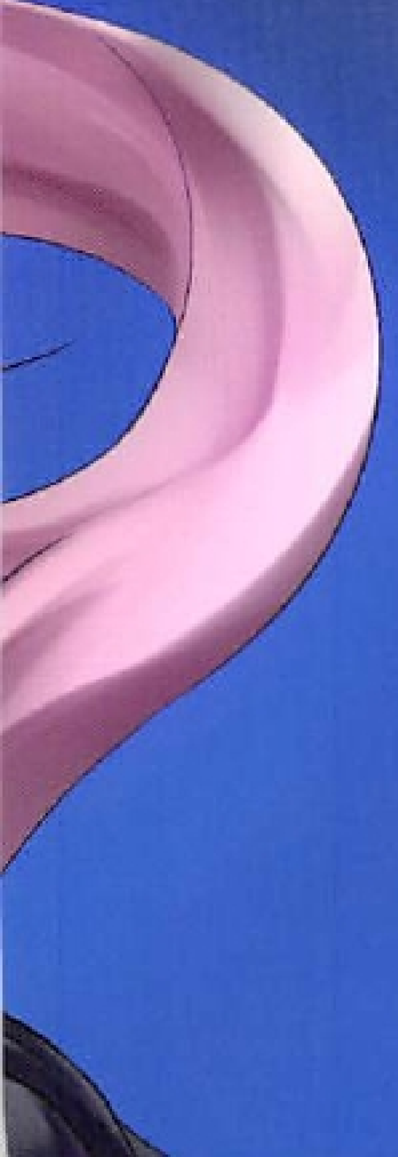
口もっ
塞いであげる
んっっっ!?
ほら、私の
胸の感触も
ありがたく
堪能するが
いいわっ
ズリッ
ムニュっ
っはぁ……♡
また、カタくなってきた
気持ちいいんでしょ?
いいのよっ
あの女装騎士みたいに
理性トばしてしまえば
また
あっ…
くるっ
熱くて
痺れるような
あの波が

ふん、わかったかしら？あんまり私に関わらない方がいいと言ったでしょ？
まったくね……仕方ないから今後は君用に令呪を残しておく事にするよ
もっと絆を深めるまでね
これに懲りたらもう
うん
もう知らないわよバーカ

2017年2月26日
ゴロワーズブルー
天乃ちはる

ジャンヌ・ダルク・オルタ・逆レイプ・アヴェンジャー

http://gblue.seesaa.net/
twitter:amanochiharu
pixiv:14503

印刷 ねこのしっぽ

ゴロワーズブルー